

異常気象が日常化し、 高時川では渇水の被害が多発 実は今も昔も 水不足

かつて湖北では、農業用水を確保するための水争いがあったと伝えられています。下流の集落の人々が白装束に身を固め、上流にある他の集落の水を取り込む「井堰」を壊しに行っていたのです。でも、今は水路等が完備され水が豊富にある時代、気象予測も正確だから水不足は過去のこと…そう思われるかもしれませんが、果たしてそうでしょうか。高時川流域の水事情に詳しい高月町の北村又郎町長、かつて井戸掘りに従事していた谷口貞夫さん、湖北土地改良区事務局長の辻喜代彦さんにお話をうかがいました。

風呂にも入れず飲み水は「もらい水」
もともと高月町は地下水位が高く、宇根（高月町）では清水と呼ぶ自然湧水があったほどです。わき水の流れる水路には、きれいな水にしか生息しないアマゴが泳いでいました。

「24尺（7.17m）掘ると水が出るのが常識：そんな高時川の伏流水で生活しているこの地域ですが、ほんの少し気象が変わると一気に水が不足してしまいます」（北村町長）

扇状地を流れる高時川は特性で、流水が干上がれば数日で地下水位が下がってしまうからです。

実は数年前の平成6年の夏も雨が少なく、長期間にわたって高時川の水が枯れ（瀬切れ）て深刻な水不足に襲われました。このときは井戸が干上がった所もありました。

つたと言います。役場は節水を呼びかけ簡易水道の馬場地区（高月町）では水道が止まりました。

「当時、琵琶湖の水位はマイナス123cmにまで下がり、遠浅状態になって沖の浮島まで歩いていきました。みんなで干上がった湖底の貝を採りに行ったのを覚えています」（北村町長）

昭和60年1月の大渇水はもっと大変でした。前年の昭和59年は台風の上陸も少なく、秋期の降雨量も極めて少ない年で、年明けに湖北地方を渇水が襲ったのです。

「あのときは役場からの給水もなく、川（用水路）で洗濯ができず、もちろん風呂にも入れません。半数の家庭は飲み水を「もらい水」でしのいでいました。高月地区約500軒に対して井戸を掘る業者は少なく、順番待ちの人も出ました」（谷口貞夫さん）

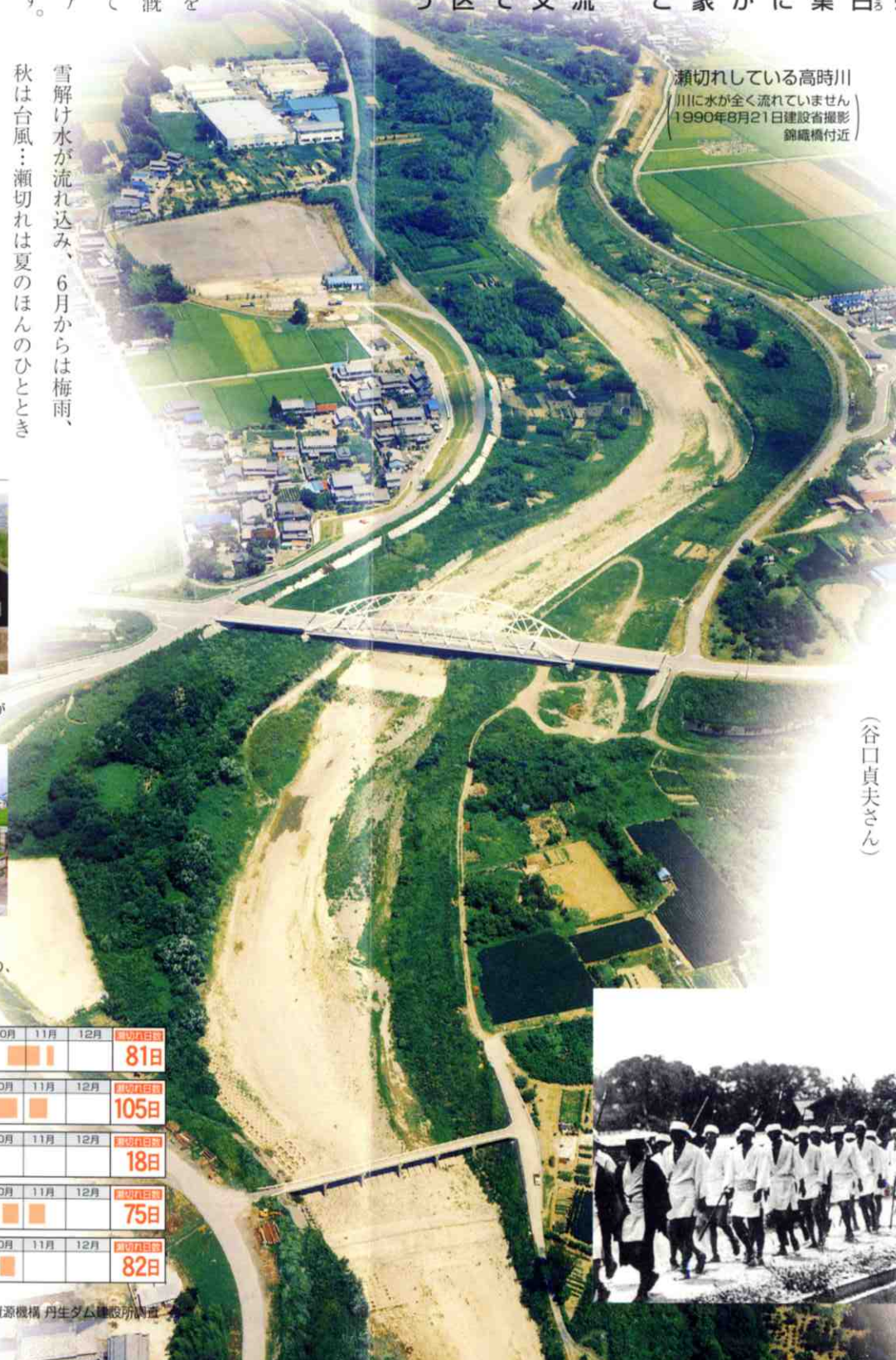
地下水を支える高時川の水量

いずれの渇水も被害がこの程度で収まったのは、湖北土地改良区によって、高時川の水を有効に配分するための対策が施されたからです。改良区では高時川から受益地各地へ灌漑用水を送水する一方で、琵琶湖から2.7m³/secの水を余呉湖に



▲セド川(用水路)に面した水洗い場

◀水争いの様子
引き上げる白装束の隊列(昭和15年)
出典：湖北農業水利事業誌



瀬切れしている高時川
川に水が全く流れていません
1990年8月21日建設者撮影
錦織橋付近

取り込んで高時川に流すなどして水量を調節しています。川の水量が減ると灌漑用水が確保できないほか、井戸が枯れて上水道に支障を来し、さらに高時川のアユ等の遡上に大きな影響が出るからです。

秋は台風：瀬切れは夏のほんのひとつきのことでした。それが今では5月から瀬切れが発生しています。この傾向は近年の気象変化の現れでしょうか、地球の温暖化によってこの現象は今後も強まるものと考えられます。

「余呉湖や井戸水で補水するポンプの電気代が渇水時には2.5倍程に増えました。約3m³/secの水が流れ続ければ高時川に瀬切れは起きないんですが、上流に姉川ダムのある姉川と違って高時川は河川流量の減少により瀬切れが起こりやすい川なのです」（辻事務局長）

今も私たちの見えないところで水を確保するために努力が払われているのです。

蛇口をひねれば水が出るのは当たり前？

昔はめったに瀬切れがおこらなかった高時川なのに、なぜ最近では瀬切れが目立つのでしょうか。

「最大の要因は上流部の降雪量と雨量の減少です。特に降雪量はかつての3分の1ほど。従来、5月ごろまでは豊富な

地球温暖化による水環境の変化と私たちの生活のかかわりについて、もっと注意深く考えなければいけないのではないのでしょうか。

湖北土地改良区の施設概要



A.高時川頭首工
地元では「合同井」とも呼ばれています



B.余呉湖補給揚水機場
排水路の水をポンプで汲み上げ用水路に給水します。



D.高月町東物部地区
反覆堰で排水路の水を用水路に導くことにより水が繰り返し利用されています。



E.高月町西阿閉地区
排水路の下流に沈殿池を設け、水を浄化すると共に、ポンプで再び用水路に給水することにより、水が繰り返し利用されています。

高時川の瀬切れの発生状況(1996年から2000年)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	発生日数
平成8年(1996)													81日
平成9年(1997)													105日
平成10年(1998)													18日
平成11年(1999)													75日
平成12年(2000)													82日

凡例 ■ は瀬切れを確認した時期
※調査範囲：高時川中・下流域（高月町、湖北町、びわ町） 独立行政法人水資源機構 丹生ダム建設所調査



▲北村 又郎さん (きたむら またろう) 高月町長
▲谷口 貞夫さん (たにぐち さだお) 高月町生まれ 高月町にて製井(さくせい)の仕事に従事し、携った家庭用井戸は延べ250本余。
▲辻 喜代彦さん (つじ きよひこ) 湖北土地改良区事務局長